

週間市場レポート (2020年8月3日~8月7日)

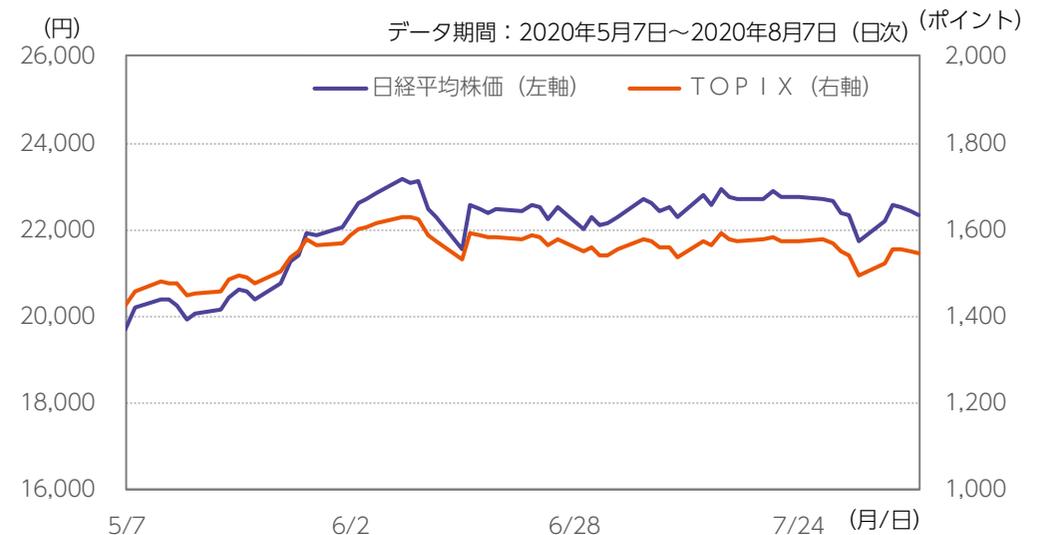
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2020/7/31	先週末 2020/8/7	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		21,710.00	22,329.94	2.86 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,496.06	1,546.74	3.39 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		26,428.32	27,433.48	3.80 ↗
S&P500種指数		3,271.12	3,351.28	2.45 ↗
ユーロ・ストックス50指数		3,174.32	3,252.65	2.47 ↗
S&P/ASX300指数		5,894.10	5,971.51	1.31 ↗
上海総合指数		3,310.01	3,354.04	1.33 ↗
MSCI AC アジア (除く日本)※		865.93	878.38	1.44 ↗
東証REIT指数		1,664.48	1,671.48	0.42 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		687.53	695.81	1.20 ↗
ASX300 REIT 指数		1,211.90	1,217.60	0.47 ↗
グローバルREIT (除く日本)※		160.30	162.49	1.37 ↗
日本10年国債 (%)		0.02	0.01	▲0.01 ↘
米国10年国債 (%)		0.53	0.56	0.04 ↗
ドイツ10年国債 (%)		▲0.52	▲0.51	0.02 ↗
英国10年国債 (%)		0.10	0.14	0.04 ↗
ドル/円		105.83	105.92	0.09 ↗
ユーロ/円		124.75	124.85	0.08 ↗
英ポンド/円		138.49	138.26	▲0.17 ↘
豪ドル/円		75.59	75.82	0.31 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,136.41	2,178.86	1.99 ↗
WTI原油先物 (ドル)		40.27	41.22	2.36 ↗
CRB 指数		143.69	146.85	2.20 ↗
アレリアンMLP指数		706.33	748.71	6.00 ↗

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で上昇となりました。前週末のハイテク企業の好決算を受けた米国株式の上昇や、外国為替市場で円高米ドル安が一服したことなどを背景に、週前半は上昇となりました。週末にかけては、短期的な過熱感を意識した投資家の利益確定売りなどに押され下落となったものの、週間では前週末比で上昇となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

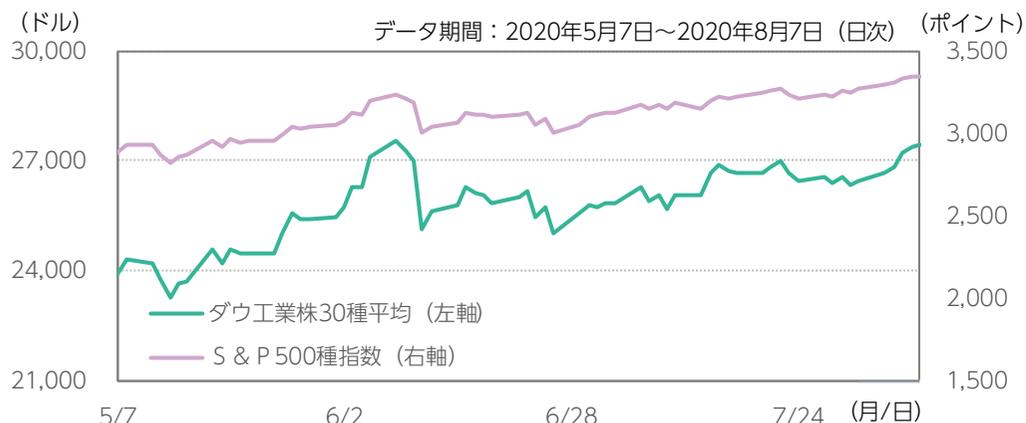
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。財務省が実施した10年国債の入札が需要の強さを示す結果と受け止められ買いが優勢となりました（利回りは低下）。週末にかけて、米国債券市場が下落した流れを受け、国内債券も売りが優勢となったものの（利回りは上昇）、週間では前週末比で低下となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

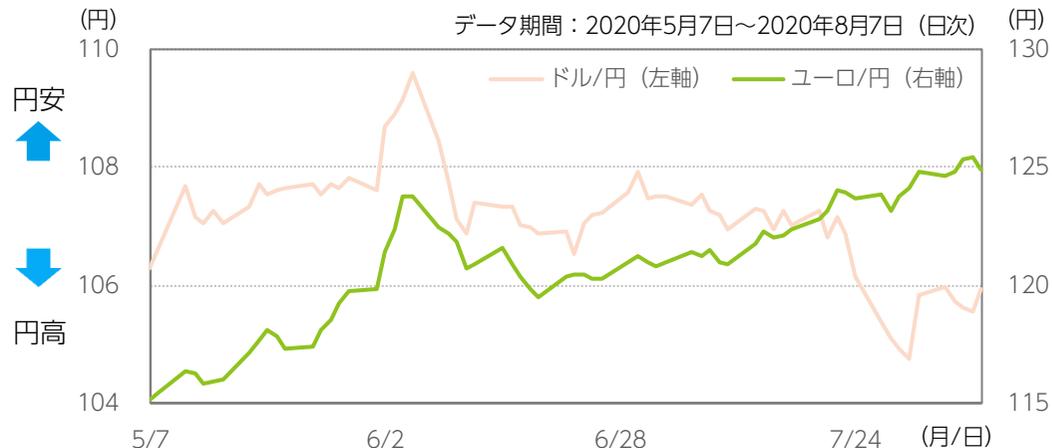
米国株式市場（NYダウ）は前週末比で上昇となりました。米議会において追加の経済対策をめぐる調整が難航していることが重荷になったものの、市場予想を上回る経済統計などを背景に景気敏感株を中心に買いが優勢となり、前週末から小幅ながらも6日続伸となりました。週末は、およそ2ヵ月ぶりの高値で取引を終えました。



出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。国内株式市場の上昇を受け投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、相対的に低リスク通貨とされる円は売りが優勢となりました。週末にかけては、米国の追加経済対策をめぐる調整の難航や、米雇用情勢悪化への警戒感などからドル売り円買いが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、市場予想を上回る米経済統計などを背景に、前週末比で上昇となりました。

世界の新型コロナウイルス感染者数は累計で2,000万人を超えました。米国では地方都市での感染が目立っており、引き続き、経済活動の再停滞が懸念されます。

米議会において、追加経済対策をめぐり野党間の調整が難航している事態を受け、8日（土）にトランプ米大統領は、失業給付の上乗せや給与税の納税猶予などを含む追加の経済対策を大統領令で発動しました。しかし、歳出の決定権は議会にあることから、大統領権限でどの程度追加支援の実現が可能となるか不透明感が残ります。

足元の米経済指標などからは、米国景気に回復が見られます。しかし、個人消費などを支えた失業保険の特例が7月末で失効しており、景気回復の持続には追加対策の早期発動が重要となりそうです。今週の株式市場は、米国の追加経済対策の先行き不透明感や、足元でくすぶり続ける米中関係の更なる悪化懸念などから、伸び悩むものと予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>